



中村みえ後援会通信

ひまわり新聞

VOL. **4**
2019年6月

中村みえ後援会事務所 〒283-0066 東金市南上宿 16-13 TEL0475-55-5737 発行者/神谷美咲



ごあいさつ

このたび「ひまわり新聞」VOL. 4を発行することになりました。

日ごろよりの皆さま方のご支援、ご理解に、心より感謝申し上げます。

今後とも、令和の新時代を担う子どもたちをいかに支援していくか、生まれたての赤ちゃん、子どもたちが力を蓄え、頭脳も、心も、体もたくましく、そして1人も欠けることなく、東金の宝として育ていってもらうために、行政の皆様と共に取り組んで参りたいと思っています。そして若い人たちが、いろいろな分野に挑戦することを、後押しできる地域社会、東金になれるよう、そんな環境を作るのが、私たちの役目だと思っています。

そのために自分で歩き、目で見、耳で聞いたことを、しっかり頭で考え、十分な議論を交わし、より良い施策となるよう、力を尽くして参りたいと思いますので、さらなるご支援、ご理解のほど、何卒よろしくお願いいたします。

東金市議会（3月・6月）定例会 一般質問質疑

3月定例会一般質問 （個人質問）

3項目について質問

1. 次期総合計画の策定について
2. 子育て支援策について
3. スポーツ振興について

質問：総合計画の策定にあたっては、多様な立場の方々がそのプロセスに参加することが大切であって、子育て施策の推進も含め、女性職員の皆さまの

質問：市がスポーツを通じて、交流人口の拡大や地域振興などの取組を行うためには、スポーツに携わるの方々のご協力が必要です。城西国際大学は様々なスポーツに係る部活動も活発であり、今後の市の取組において、城西国際大学との連携・協力はより一層必要と考えますので、スポーツを通じた取組における大学との連携の展望についてお伺いします。

答弁：城西国際大学は、これまでも様々な分野でご協力をいただいております。スポーツの分野ではサッカーや剣道、柔道などの大会を、毎年、主催されるなど地域のスポーツ振興において大きく

中にも、高い関心を秘めた方、また女性ならではの視点からのお考え、ご意見もありがとうございます。そのような女性職員さんのネットワーク、また、柔軟な発想を活かしたり、アイデアを出し合うなどの環境や体制を作っていくことはできないでしょうか。

答弁：「庁内若手プロジェクトチーム」の募集にあたっては、子育て世代の女性職員でも参加できるよう、性別や職種の制限を設けていません。メンバーについては、現在、企画課内で選考を行っています。こうした点を考慮し

寄与していただいております。

来年度は、東金アリーナをスタート並びにゴール地点とするハーフマラソンを企画しており、このイベントを行う目的の1つとして交流人口の増加を掲げ、市外からも広く参加者を募ることを想定しています。ハーフマラソンでは多くの方々が奉仕に集まるため、この企画の運営、並びに参加者としても城西国際大学のご協力は必要であり、今後、詳細について大学との協議を行う予定となっています。

このように本市においてスポーツを通じた取組を行う上で、城西国際大学との協力・連携は必要であり、継続・

ながら人選を進めたいと考えています。

私の思い：総合計画策定の趣旨は、市民一人ひとりをはじめとした、多様な主体が、東金市の未来のあるべき姿に向かって、何をすべきか考え、みんなで力を結集し、行動していくための方向性を明らかにするものであると、私も認識しております。

新しい総合計画デザインの中核となるのは、やはり組織マネジメントだと考えます。総合計画策定において、全面的な市民参画と職員の主体的関与がなされますよう、よろしくお願いいたします。

発展させてまいりたいと考えています。

私の思い：城西国際大学は、人・物・知識を備えた地域の財産であり、地域社会の担い手として、本市においてまちづくりを進める上での貴重なパートナーです。

そして、東金市と城西国際大学が、教育、文化、健康福祉、まちづくり、そしてスポーツ等の各分野で、相互に連携・協力していくことで、人づくりや教育力の向上、地域の課題解決・活性化など、地域社会の発展につながるものと考えます。今後も大学連携について積極的な取組を要望致します。

6月定例会一般質問 (代表質問)

5項目について質問

1. 福祉行政について
2. 医療行政について
3. 教育行政について
4. 農業行政について
5. 一般行政について

質問：現在、宿泊型産後ケア事業を実施していますが、今後、新たな取組をお考えであれば伺います。

答弁：宿泊型産後ケア事業につきましては、支援者がおらず育児不安が強い出産後 8 週までの方を対象と致しまして東千葉メディカルセンターへ委託し実施しております。平成30年度は 6 名の利用がございました。今後もこの宿泊型産後ケア事業を継続しながら、産後の支援体制の充実を図る取組について、他団体の事例を研究し検討して参りたいと考えております。

私の思い：核家族の増加に伴い、頼れるはずの親が近くにいなかったり、地域との関係も希薄になるなど、他者からの子育て支援が、現在、期待できな

くなっています。また、お母さん自身、自分の身体と向き合い、より良い産後を過ごすことは、心身共に健康となり自立した女性として子育てを楽しむことにつながります。現在実施されている宿泊型産後ケア事業の他にも、いわゆる施設型の日帰り、それから助産婦さんの家庭訪問による訪問型の産後ケア事業などの「産後ケア」を実施、そして強く推奨していくことが女性の健康を守ることにつながります。母子保健の様々な課題を解決していくためにとても重要なことだと思いますので、ご検討よろしく願います。

質問：前回の議会でも子育てアプリで質問させていただきましたが、子育て情報発信について、現在の検討状況について、進捗等がありましたら伺います。

答弁：子育て情報発信についての検討状況と進捗状況についてでございますが、「新たな情報発信方法の検討」や「子育て情報の共有」などを目的として、子育て世代包括支援センターを所管する子育て支援課及び健康増進課、関連するこども課や教育委員会により「子育て情報発信検討会議」という検討グループを本年 3 月に設置し、既に 3 回の会議を実施いたしました。この会議の中で、既に他市で導入されている、「子育て支援アプリ」のデモンストレーションなどを行い、導入によるメリットや課題について検討を重ねております。

私の思い：「子育て情報発信検討会議」を立ち上げていただき、すでに 3 回の会議を行っていただいているとのこと、感謝します。まさに庁内連携です。

必要な情報が必要な方に届くことこそがとても大切なことだと考えます。

現在、子育て中の方、子育て世帯の保護者の大半の方々が、スマートフォンを利用されていらっしゃいます。この、スマートフォンを利用した子育てアプリは、子育てする方々にとってとても有効なツールになると考えます。

これからはペーパーレス、国会の議会改革で今まさに取り組んでいるのがこのペーパーレス、そして、キャッシュレス、スマートフォンで買い物から納税、家計管理もアプリで、そしてオンライン診療など多岐にわたりスマートフォンが利用されています。

実際、私も、子育て情報を確認する

にあたり、「広報とうがね」と市ホームページを照らし合わせて、日程を確認するのが大変なんです。児童館はこの日でとか、図書館は木曜日でとか。ですから、この多くの方が利用されるスマートフォンでいつでもどこでも必要な時に子育て情報を見ること、知ることができたらどんなに便利なことかと思えます。現在、調査、またご検討いただいているとのことですが、私は、東金の子育て世代の皆さまに必要な子育てアプリの導入を今回も要望を致します。



TOPICS



5月22日、東金アリーナ武道場にて第1保育所・ミニミニ運動会が開催され、市内各地からご参加いただいた36組の乳幼児と保護者の皆さまにお会いすることができました。親子でのゲームから保育士さんの楽しい演出と読み聞かせに子どもたちの目はキラキラ輝いていました。いつも思う事ですが、みんな絵本の読み聞かせがすごく好きなんだと、一所懸命にお話を聞いているのを見て嬉しくなりました。ミニミニ運動会に参加して改めて、日々、事故のないように常に気を配りを欠かさない保育士さんたちのご努力に頭が下がります。そしてお母さんたちの生のご意見をお聞きする良い機会でした。来年も楽しみです。



5月16・17日、自民党本部にて「全国女性議員政策研究会」が行われ参加してまいりました。それぞれの分野でご活躍なさっている講師の先生方の講義を受講させていただきました。特に 2 日目は衆議院議員小泉進次郎先生の「令和を国会改革の時代に」のご講演に感激しました。



←写真は分科会 3 テーマの中から「女性の健康」(講師奈良県立医科大学教授小林浩氏)を受講し、分科会後学んだ内容を皆さんで議論し発表しました。この研修会で学んだ事を活かし、女性の目線でこれからの生活や暮らしを考えた活動を展開してまいりたいと思っています。

写真は参議院議員三原じゅんこ女性局長と→

